

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700223		
法人名	一期一会福祉会		
事業所名	グループホーム岩倉一期一会荘		
所在地	愛知県岩倉市北島町七反田35番地		
自己評価作成日	平成25年 9月27日	評価結果市町村受理日	平成26年 1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_2013_022_kani=true&JivgyosoCd=2374700223-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・外出の機会を多く持っている。「地域との交流を大切にしたい」との思いから、地元のお祭り、市民文化祭、地域のふれあい昼食会等へ参加している。また、気候に留意しながら外出ツアーを企画しており、外へ出ることで季節ごとの景色を見たり、ご利用者様同士お話をしたりすることができ、喜びを感じて頂いている。また、ご家族様の参加も呼び掛けており、参加されたご家族様からは、なかなか自分達だけでは外に連れて行けないが、このような機会があれば都合が合えば参加していきたいという言葉も頂いている。無理強いせずにつけていきたいと思っている。・家族会を定期的に開催している。毎回、半数以上のご家族様に参加して頂いており、ご家族様のご理解・ご協力を得られるようになってきている。また、ご家族様同士での交友関係も生まれており、連絡先を交換したりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームに対しての家族の思いが、家族アンケートに表れている。18家族全てが回答し、全家族がホームの現状を理解し、前向きに答えている。お任せ的な家族は見当たらない。
回答内容も、殆どの家族が満足(90%以上の方が満足・やや満足)の意思表示をしており、特に厳しい評価を受けがちな7項目「戸外への外出支援」では、多くの家族が満足・やや満足と回答している。自由記述も18家族中15家族が、『穏やかに過ごさせていただき、本人も穏やかになった』、『買い物に出かけた際、常連だった喫茶店に寄り本人も喜んでいる』等、賞賛の声が多く寄せられた。
家族会、運営推進会議、家族来訪時に意見・要望を聞き取り、丁寧に対応し、毎月の『便り』でホームの動き・利用者の近況を報告し、ホームの支援内容を家族が理解出来ている結果と思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく暮らしていただく一期一会の家」を理念として、管理者と職員が日頃から話し合いを行っている。そして、ご利用者様に自分らしく暮らしていただく為にはどうしたらよいかを考え、実践している。	利用者が入居前の生活と大きく変わらぬよう、利用者の笑顔を大切に、全ての場面で「一期一会」の気持ちで支援している。職員にも浸透しており、その時その時を大切にしている。	理念に根付いた支援の質をより向上させ、スパイラルアップして行くためにも、理念を展開したホームの目標(年度又は月次)を掲げて取り組む事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や地域の夏祭りに積極的に参加し市民文化祭にも作品の展示を行っている。社会福祉協議会とも連携を図り、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。また、それまで住んでいた地域の喫茶店などに行っている。	地域の行事には積極的に参加し、秋祭りの子供獅子舞や多くのボランティアが来訪している。社協主催の「ふれあい昼食会」には、法人のバスに利用者や地域の参加者も一緒に乗り合わせ、交流関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩倉市の認知症サポーター育成事業があり積極的に協力している。見学希望者の訪問も積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の議事録を配布し、議題に挙がった検討課題の進行状況・結果等を報告している。月の行事内容や取組についても報告し、サービスの向上に活かすことが出来るよう努めている。また、家族会での意見や内容も反映している。	市役所・地域包括支援センター・民生委員・利用者・家族・職員・を構成メンバーとして年6回開かれている。ホームからの報告のみでなく、会議で出された質問・意見を取り入れサービスの質の向上に努めている。	会議の構成メンバーとして知見者(他のグループホームの管理者等)の参加が望まれる。参加しているメンバーに取っても、他事業所での取組や情報は参考になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岩倉市が委託している介護相談員を受け入れており、意見の交換等を文章で残すことで、岩倉市の担当者も把握している。また、運営推進会議にも参加していただいている。	運営推進会議への地域包括支援センターの参加・介護相談員の受け入れによりホームの状況は市役所窓口には伝わっている。施設長は認知症ケアアドバイザーとして活動しており、市と連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルを設置し職員がいつでも閲覧できるようになっている。玄関の施錠も含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる。また、勉強会の議題として取り上げ、学ぶ機会を持っている。	施設長・職員は身体拘束の弊害を十分に理解し、利用者一人ひとりの外出の癖や傾向を把握して見守りを徹底し、日中は開錠している。法人全体研修では必ず身体拘束の研修を行い、意識がマンネリ化しない様に法人としても配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のマニュアルを設置し職員がいつでも閲覧できるようになっている。また、勉強会の議題として取り上げ、学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされている方はいないが、必要があれば対応できる体制を整えている。また、勉強会の議題として取り上げ、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いて話し合える場所と時間を提供し、説明・契約を行っている。入居後も質問に対して、随時十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご利用者様・ご家族様の意見を受ける意見箱を設置し、意見があった際は、速やかに対応できるよう努めている。また、介護相談員が職員を通さずにご利用者様の意見を聞ける環境が出来ており対応している。	家族会や運営推進会議で、多くの意見・提案が出されている。家族の提案で、『職員の顔写真・名前の掲示』、『連絡事項のメール対応』等が具体化され、家族アンケートには、素早い対応に感謝の言葉があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から管理者との話し合いを行っている。職員の声から生まれる介護アイデアを大切にしている。	職員ヒアリングでは、『管理者は職員の提案を良く聞いてくれる』と管理者と職員の関係は良好との声がある。職員の提案で、『居室の変更』、『オムツ業者による排泄ケアの勉強会』等が具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、半年ごとに目標シートを作成し、管理者と職員が面接を行い達成度を確認している。助言を行い向上心を持ち続けることが出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修期間中に各業務のマニュアルを配布し、実際の業務を一緒に行いながら計画的に育成している。また、年に2回人事考課面接を行い、職員と共に課題を考え取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所同士の意見交換会を2ヶ月に1度開催しており、話し合う機会を設けている。また、相互の勉強会に参加する事で、現場の職員同士で意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設への見学を行い、ご利用者様との交流や職員との顔合わせを行っている。また、個別で話し合う場を設け、不安の無いように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設への見学を行い、施設での様子や雰囲気を感じて頂く事や職員との顔合わせを行っている。また、個別で話し合う場を設け、不安の無いように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接施設との協力体制が確保されていることを伝え、サービス内容の説明も行っている。必要に応じ、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常にご利用者様と寄り添う姿勢をとっている。共感し共に取り組む事で、日々の生活を支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の健康状態及び日々の様子について、随時ご家族様への報告・連絡・相談を行い、協力を得られる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に馴染みのある場所への外出を企画している。また、ご家族様以外の方でもご家族様の了承を得て面会が出来る環境である。	職場の同僚・地域活動の仲間・ケアハウス時代の仲間等、利用者と馴染みの方の来訪を継続している。幼い頃遊んだ神社・常連になっていた近くの喫茶店等に、馴染みの場所を求めて積極的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、食事作り・洗濯・掃除・買い物等を共に行うことが出来るよう配慮している。また、クラブや回想法、レクリエーションの中でもご利用者様同士が自然な会話が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の関係機関との情報交換や相談の対応も行っており、ご利用者様・ご家族様の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でのコミュニケーションを大切にしている。出来る限りご利用者様が望む活動が出来るような職員体制となっている。	職員は寄り添い、利用者の表情から意向や希望を把握している。回想法でプロジェクターを用いて大画面で懐かしい場面を見せ、職員が反応・言葉を拾っている。『寿司を食べたい』思いを父の日に叶えた事もある。	余り喋らない利用者に輝いていた時代を思い出させるインパクト(当時のアルバム・新聞・雑誌・VTR・歌等)を積極的に与え、思いを引き出す誘い水になる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルに情報を収集し、過去の情報を見やすくまとめている。ご利用者様の言動やご家族様との会話の中からこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の進行に配慮し、常に新しい情報の把握に努めている。日々の申し送りも朝夕と行い、情報の共有にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族様と相談し、介護計画を作成している。また、ご利用者様の希望も取り入れている。カンファレンスを定期的に行い、意見や要望を集約し作成に役立てている。	日常のケアから得た情報を月1回のユニット会議で話し合い、介護計画に反映させている。家族も積極的に関わり、具体的に家族の要望を反映するよう、計画書には家族が要望を書き込む欄が設けられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常状況観察表と共に介護計画書を常に確認できる状態にしている。気づきや工夫においては、申し送り記入欄や連絡ノートにて情報を共有出来ており、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接施設があることの利点を生かし、様々な状況に対応している。また、パソコンや携帯電話のメール機能を使用しての連絡等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流会や行事に参加している。ボランティアや慰問も多く受け入れており、市内の中学・高等学校との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様の希望を尊重し、地域のかかりつけ医との関係を築きながら、診察、往診を受けることが出来ている。	地域の総合病院が事業所の協力医になっており、週1回の往診を受けている。24時間対応してもらえる体制が整っており、家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員を置いている。また、かかりつけ医にいつでも相談できる体制をとっており、ご利用者様に合わせた看護を行うことが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・病院・グループホームで情報を共有し、対応している。介護計画も状況に合わせて変更している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と職員が話し合い、同じ思いを持って終末期の対応を行っている。介護計画も状況に合わせて変更している。また、かかりつけ医、看護職員との情報交換を密に行い、その上で、状態の変化に対応する事が出来るよう準備を行っている。	6月に看取りを経験した際、『食べられない、水も飲めない、排泄もない』と家族・職員も不安の中、主治医から『これが自然の死』と教えられ、家族・本人の希望で最期まで一期一会で見た。ターミナル期間中は、孫も含め家族の協力が得られた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを設置し職員がいつでも閲覧できるようになっている。また、会議で取り上げ、実践をふまえて訓練を行い、見直しや復習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併施設設と共同で防災委員会を設置している。防災訓練を定期的に行い、防災についての打ち合わせも行っている。また、防災訓練の際には消防署と連携を取り、行っている。	併施設設と合同で、地域の参加もある防災訓練を行っている。それとは別に、ホーム単独でも年間計画を立て、夜間想定、避難誘導、通報訓練等、様々な状況を想定し、それが習慣になる様に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症への理解を深める為に勉強会の議題で取り上げ、言葉かけの大切さを学んでいる。家庭的な雰囲気の中でも親しき中にも礼儀ありを忘れずに接している。	利用者の尊厳に配慮し、利用者個々の性格や特性を把握し、勉強会で接し方や声かけ等を話し合っている。特に言葉遣いには気を付けて、親しみの中にも礼儀を忘れない様に日頃から注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム内での過ごし方や、日常生活の中で、ご利用者が思いや希望を表すことが出来る言葉かけを職員が心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に自分の役割や個性の表現の自由を配慮し、一人一人が満足する暮らしを目標として支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隣接施設内の床屋にて散髪が出来るが、希望に応じ、移動理美容を利用したり、ご利用者様のなじみの床屋・美容院へ行けるよう支援している。衣類についても、本人の好みの店に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様からの意見も聞き、献立を作成している。旬の食材を使用して季節を感じる事が出来るように支援している。ご利用者様と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の『力量・希望(食材買・刻む・盛り付け・洗い・拭き等)』に応じ、楽しみながら参加し、参加出来ない方には味見等、台所に来る機会を作っている。職員も一緒に食卓を囲み、談笑しながら食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員記録しており、栄養バランスについては隣接施設の管理栄養士が確認と助言をしている。ご利用者様一人一人に合わせた摂取量を会議等で検討、見直しを行い、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には、物品の準備から行っていただいている。物品の準備が出来ない方には、口腔ケアが行えるよう物品をお渡しする等支援している。必要な方には介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心・プライバシーに配慮し、安心できるような言葉かけで対応している。また、排泄チェック表をもとに、排泄パターンに合わせた誘導を行っている。	利用者一人ひとりのパターンを把握し、声かけ誘導でトイレで排泄できるよう支援している。夜間においても時間を決めて誘導し、失禁回数が減って状態が改善した事例も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに排泄周期を把握しながら、食材の工夫や体操を行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。また、季節ごとに菖蒲湯・ゆず湯などを行い、季節を感じていただいている。	利用者の希望に沿った入浴を支援している。入浴を好まない利用者であっても、最低週3回は入浴できるよう工夫して声かけをしている。入浴剤や湯上りのスキンクリームを使用して、肌が乾燥しないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の記録から、生活習慣の把握に努め、その時々状況に応じて生活リズムを崩さぬよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容・用量・副作用を処方箋をもとにまとめ、分かりやすくすることで、職員が把握できている。ご利用者様に合わせ服薬の支援を行い、症状や変化に合わせてかかりつけ医へ相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内でのクラブやレクリエーションへ参加している。また、地域の馴染みのある教室へも参加しており、楽しみや、役割分担により頼りにされているという達成感を得ることが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が付き添うことで日中の外出を行っている。また、ご家族様に対して、ご利用者様の希望などを伝え、行きたいところに出掛けられるよう支援している。	日常的に、職員が付き添って利用者が併設施設に出て行き、喫茶店・広いお庭(花見・ミカン狩り・芋ほり)等を楽しんでおり、本館に行く事が外出気分になっている。他に外出ツアー(名古屋城・犬山城・花見等)・喫茶ツアー等、外出の機会が多い	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様のご理解をいただき、ご利用者様の希望や力に応じて、外出先での支払いをご自身にさせていただき、金銭管理の継続を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、施設の固定電話を使用して電話をかける事が出来る環境を整えている。はがきや手紙のやり取りも希望に応じできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多く使用した造りで、家庭的な雰囲気である。また、季節に合わせた掲示物や、生け花を展示したり、飾りつけなどを行っている。	ホーム全体が木の温もりを感じる造りになっており、職員の明るい声と相まって明るい空間が作り出されている。リビングの外には広いウッドデッキが設けられ、バーベキューを楽しむこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士で過ごすことが出来るようにリビングの席にも配慮している。共有空間の中でもソファで一人になれる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に在宅で使われていた家具や道具を持ち込む事で、居心地よく過ごせる工夫が出来ている。	使い慣れた筆筒やテレビ、家族の写真等、利用者個々の思い出の品々が持ち込まれ、利用者が落ち着いて過ごせる居室作りを支援している。クリスチャンの利用者の居室には、読み込まれた聖書が置かれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホワイトボードを設置し、日付や行事予定、食事時間の表示などを行っている。ご利用者様の能力に合わせ工夫を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700223		
法人名	一期一会福祉会		
事業所名	グループホーム岩倉一期一会荘 (2ユニット)		
所在地	愛知県岩倉市北島町七反田35番地		
自己評価作成日	平成25年 9月27日	評価結果市町村受理日	平成26年 1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=2374700223-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・外出の機会を多く持っている。「地域との交流を大切にしたい」との思いから、地元のお祭り、市民文化祭、地域のふれあい昼食会等へ参加している。また、気候に留意しながら外出ツアーを企画しており、外へ出ることで季節ごとの景色を見たり、ご利用者様同士お話をしたりすることができ、喜びを感じて頂いている。また、ご家族様の参加も呼び掛けており、参加されたご家族様からは、なかなか自分達だけでは外に連れて行けないが、このような機会があれば都合が合えば参加していきたいと言葉も頂いている。無理強ひせずにつけていきたいと思っている。・家族会を定期的に開催している。毎回、半数以上のご家族様に参加して頂いており、ご家族様のご理解・ご協力を得られるようになってきている。また、ご家族様同士での交友関係も生まれており、連絡先を交換したりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく暮らしていただく一期一会の家」を理念として、管理者と職員が日頃から話し合いを行っている。そして、ご利用者様に自分らしく暮らしていただく為にはどうしたらよいかを考え、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や地域の夏祭りに積極的に参加し市民文化祭にも作品の展示を行っている。社会福祉協議会とも連携を図り、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。また、それまで住んでいた地域の喫茶店などに行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩倉市の認知症サポーター育成事業があり積極的に協力している。見学希望者の訪問も積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の議事録を配布し、議題に挙げた検討課題の進行状況・結果等を報告している。月の行事内容や取組についても報告し、サービスの向上に活かすことが出来るよう努めている。また、家族会での意見や内容も反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岩倉市が委託している介護相談員を受け入れており、意見の交換等を文章で残すことで、岩倉市の担当者も把握している。また、運営推進会議にも参加していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルを設置し職員がいつでも閲覧できるようになっている。玄関の施錠も含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、勉強会の議題として取り上げ、学ぶ機会を持っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のマニュアルを設置し職員がいつでも閲覧できるようになっている。また、勉強会の議題として取り上げ、学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされている方はいないが、必要があれば対応できる体制を整えている。また、勉強会の議題として取り上げ、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いて話し合える場所と時間を提供し、説明・契約を行っている。入居後も質問に対して、随時十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご利用者様・ご家族様の意見を受け意見箱を設置し、意見があった際は、速やかに対応できるよう努めている。また、介護相談員が職員を通さずにご利用者様の意見を聞ける環境が出来ており対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から管理者との話し合いを行っている。職員の声から生まれる介護アイデアを大切にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、半年ごとに目標シートを作成し、管理者と職員が面接を行い達成度を確認している。助言を行い向上心を持ち続けることが出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修期間中に各業務のマニュアルを配布し、実際の業務を一緒に行いながら計画的に育成している。また、年に2回人事考課面接を行い、職員と共に課題を考え取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所同士の意見交換会を2ヶ月に1度開催しており、話し合う機会を設けている。また、相互の勉強会に参加する事で、現場の職員同士で意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設への見学を行い、ご利用者様との交流や職員との顔合わせを行っている。また、個別で話し合う場を設け、不安の無いように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設への見学を行い、施設での様子や雰囲気を感じて頂く事や職員との顔合わせを行っている。また、個別で話し合う場を設け、不安の無いように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接施設との協力体制が確保されていることを伝え、サービス内容の説明も行っている。必要に応じ、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常にご利用者様と寄り添う姿勢をとっている。共感し共に取り組む事で、日々の生活を支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の健康状態及び日々の様子について、随時ご家族様への報告・連絡・相談を行い、協力を得られる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に馴染みのある場所への外出を企画している。また、ご家族様以外の方でもご家族様の了承を得て面会が出来る環境である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、食事作り・洗濯・掃除・買い物等を共に行うことが出来るよう配慮している。また、クラブや回想法、レクリエーションの中でもご利用者様同士が自然な会話ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後の関係機関との情報交換や相談の対応も行っており、ご利用者様・ご家族様の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でのコミュニケーションを大切にしている。出来る限りご利用者様が望む活動が出来るような職員体制となっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルに情報を収集し、過去の情報を見やすくまとめている。ご利用者様の言動やご家族様との会話の中からこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の進行に配慮し、常に新しい情報の把握に努めている。日々の申し送りも朝夕と行い、情報の共有にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族様と相談し、介護計画を作成している。また、ご利用者様の希望も取り入れている。カンファレンスを定期的に行い、意見や要望を集約し作成に役立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常状況観察表と共に介護計画書を常に確認できる状態にしている。気づきや工夫においては、申し送り記入欄や連絡ノートにて情報を共有出来ており、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接施設があることの利点を生かし、様々な状況に対応している。また、パソコンや携帯電話のメール機能を使用しての連絡等もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流会や行事に参加している。ボランティアや慰問も多く受け入れており、市内の中学・高等学校との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様の希望を尊重し、地域のかかりつけ医との関係を築きながら、診察、往診を受けることが出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員を置いている。また、かかりつけ医にいつでも相談できる体制をとっており、ご利用者様に合わせた看護を行うことが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・病院・グループホームで情報を共有し、対応している。介護計画も状況に合わせて変更している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と職員が話し合い、同じ思いを持って終末期の対応を行っている。介護計画も状況に合わせて変更している。また、かかりつけ医、看護職員との情報交換を密に行い、その上で、状態の変化に対応する事が出来るよう準備を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを設置し職員がいつでも閲覧できるようになっている。また、会議で取り上げ、実践をふまえて訓練を行い、見直しや復習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と共同で防災委員会を設置している。防災訓練を定期的に行い、防災についての打ち合わせも行っている。また、防災訓練の際には消防署と連携を取り、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症への理解を深める為に勉強会の議題で取り上げ、言葉かけの大切さを学んでいる。家庭的な雰囲気の中でも親しき中にも礼儀ありを忘れずに接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム内での過ごし方や、日常生活の中で、ご利用者が思いや希望を表すことが出来る言葉かけを職員が心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に自分の役割や個性の表現の自由を配慮し、一人一人が満足する暮らしを目標として支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隣接施設内の床屋にて散髪が出来るが、希望に応じ、移動理美容を利用したり、ご利用者様のなじみの床屋・美容院へ行けるよう支援している。衣類についても、本人の好みの店に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様からの意見も聞き、献立を作成している。旬の食材を使用して季節を感じる事が出来るように支援している。ご利用者様と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員記録しており、栄養バランスについては隣接施設の管理栄養士が確認と助言をしている。ご利用者様一人一人に合わせた摂取量を会議等で検討、見直しを行い、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には、物品の準備から行っていただいている。物品の準備が出来ない方には、口腔ケアが行えるよう物品をお渡しする等支援している。必要な方には介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心・プライバシーに配慮し、安心できるような言葉かけで対応している。また、排泄チェック表をもとに、排泄パターンに合わせた誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに排泄周期を把握しながら、食材の工夫や体操を行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。また、季節ごとに菖蒲湯・ゆず湯などを行い、季節を感じていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の記録から、生活習慣の把握に努め、その時々状況に応じて生活リズムを崩さぬよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容・用量・副作用を処方箋をもとにまとめ、分かりやすくすることで、職員が把握できている。ご利用者様に合わせ服薬の支援を行い、症状や変化に合わせてかかりつけ医へ相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内でのクラブやレクリエーションへ参加している。また、地域の馴染みのある教室へも参加しており、楽しみや、役割分担により頼りにされているという達成感を得ることが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員が付き添うことで日中の外出を行っている。また、ご家族様に対して、ご利用者様の希望などを伝え、行きたいところに出掛けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様のご理解をいただき、ご利用者様の希望や力に応じて、外出先での支払いをご自身にさせていただき、金銭管理の継続を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、施設の固定電話を使用して電話をかける事が出来る環境を整えている。はがきや手紙のやり取りも希望に応じできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多く使用した造りで、家庭的な雰囲気である。また、季節に合わせた掲示物や、生け花を展示したり、飾りつけなどを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士で過ごすことが出来るようにリビングの席にも配慮している。共有空間の中でもソファで一人になれる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に在宅で使われていた家具や道具を持ち込む事で、居心地よく過ごせる工夫が出来ている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホワイトボードを設置し、日付や行事予定、食事時間の表示などを行っている。ご利用者様の能力に合わせ工夫を行っている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム岩倉一期一会荘

目標達成計画

作成日: 平成 26 年 1 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議の構成メンバーとして「知見者」の参加が望まれる。参加しているメンバーにとっても、他事業所での取り組みや情報は参考になると思われる。	市内の地域密着型サービス事業所へ運営推進会議への参加を呼び掛けて、参加して頂く。	市内の地域密着型サービス事業所へ、運営推進会議の案内文書をお送りする。管理者・職員に出席して頂き、他事業所での取り組みや情報交換を行なう。	6ヶ月
2	23	余り喋らないご利用者様に輝いていた時代を思い出させるインパクトを積極的に与え、思いを引き出す誘い水になる事を期待したい。	訴えの少ない、または訴えることが出来ないご利用者様の思いを吸い上げて対応をしているが、より吸い上げられるよう、積極的に当時のアルバムや歌等を活用する。	ご利用者様の想いを普段の生活の中から職員是認で考えていく。導き出した想いを叶える事が出来るように、誕生日や行事、個別対応を通じて行っていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。